

リーフチェック串本 2020 調査結果と評価

リーフチェック串本 TS 野村恵一

リーフチェック串本は 2000 年から世界的規模のサンゴ礁監視活動である「リーフチェック」に参加するとともに、2001 年からは串本独自の調査対象種を多数加え、串本の海の変化を捉えるための調査活動を展開しています。今年はリーフチェックに参加してから 21 回目に当たり、去る 6 月 13 日に調査が実施されました。

今年の調査結果のまとめと年変化を表 2020 (3m, 10m) に、代表種・代表群の年変化を図 2020 に示しました。今年は新型コロナの流行で予備調査が出来ず、本番も 1 日だけの実施となり、クロホシイシモチ、カサゴ、それにナマコ類のカウントが実施できませんでした。これらの種の値が抜けると、全体評価が不能になるため、未調査種には便宜的に今年度の値として前年の値を代用して集計しました。

結果はこれまでの減少傾向を引き継ぎ、多くの種で過去最低レベルを維持し、全体 (図 2020-3) を見ても分かるように、「底」の状態を脱出できませんでした。唯一例外なのは、3m地点のギンタカハマで、この種だけは今の環境を謳歌しています。

さて、今後はどうなるでしょう。依然として黒潮は蛇行を続けており、早急な回復は見込めません。世は地球温暖化とは言え、紀伊半島の沿岸生物に絶対的な影響を与える黒潮の流路は気まぐれのようなようです。ただし、黒潮はいつかは必ず再び直進 (接岸) に転じ、そうなると一気に増加に変わることでしょう。

昨年の評価において、水温ばかりでなく、サンゴ激減による環境の質的な低下の影響も結果に現れている可能性があり、隣接するサンゴ健全域において比較対照のための地点を増やすことを提案しました。しかしながら、今年はコロナの影響で最低限の調査しか実施出来ませんでした。来年はぜひ実現したいものです。サンゴが少ないのはやはり寂しいものです。